

令和7(2025)年度  
運営に関する計画・自己評価

最終評価

大阪市立梅香中学校

## 大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

校内アンケートでは「学校のルールを守っている」と感じている生徒の割合がここ数年9割を超えている。これは生徒一人ひとりが主体的に行動し、自制心や判断力が身につけてきた証だと捉えている。また、「楽しく学校に通っている」や「授業が楽しい」、「自ら考えるようになった」の質問項目でも肯定的に回答する生徒の割合が7割を超える等、増加傾向にある。学校安心ルールの下で、落ち着いた学習環境・雰囲気の中で日常的に生徒が楽しく学校生活を過ごせるようになったことは人権学習や道德等の実践を積み重ねてきた成果である。現在、「あいさつ」ができていない学校、部活動の充実した学校、夜間遠足のある学校として保護者や地域の方々からの評価も高まってきている。今後は生徒の学力向上に重点を置いた学校づくり、カリキュラムマネジメントの充実が喫緊の課題である教職員が一丸となってより一層、教職員の資質の向上と生徒への質の高い授業を提供する等、保護者ときめ細やかな連携を図っていく。

チーム梅香中学校は、課題解消のため、校区小学校や此花区役所との連携を積極的に推進していく。課題の学力面をテスト結果から分析すると、チャレンジテストによる評定平均が下位層にあることがわかる。「平均正答率」では、すべての教科において大阪府、大阪市のそれより下回っている。また、昨年度の全国学力学習状況調査においても同様である。学校元気アップ事業や、今年度より始まる学校力向上支援チーム事業を効果的に活用し、放課後学習会や定期テスト前の自主学習会を充実させることで成果を期待する。

さらに、こどもサポートネット事業を活用し、生徒の学習規律の改善や環境の整備、生活指導における支援を通して、生徒の家庭学習の定着や規範意識の醸成を図るとともに、基本的な生活習慣の構築不足を改善していく。また、学力への課題や心身の健全な育成を促すことで、生徒が「夢」や「目標」を持てるようなキャリア教育の創意工夫と様々な深い学びを通して、生徒の向上心や達成感を刺激し、一人ひとりの自尊感情を養うことをめざす。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の児童生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を、毎年100%にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より10%増加させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート(生徒用)において、「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より5%増加させる。

### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より4ポイント増加させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率5割以下の生徒を、令和3年度より10ポイント減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート(生徒用)において、「わたしは、授業を通して、基礎的・基本的な学力を身につけている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より5%増加させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.1ポイント向上させる。
- 規則正しい生活を身につけている生徒の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を令和7年度調査において、80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童(生徒)の割合を、100%にする。
- 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合を、100%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査・校内調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、肯定的に答えない生徒の割合を、令和3年度より15ポイント減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート(保護者用)において、「学校には、他の学校にない特色がある」の項目において、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10%増加させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「わたしは、楽しく学校に通っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。

### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より0.02ポイント向上させる。  
(学校独自の目標)
- 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「授業はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90.7%以上にする。

(年度目標における総括)

【安全・安心な教育の推進】「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、最も肯定的な回答の割合が81.7%と達成できなかった。不登校生徒の在籍比率は14.2%と前年度より3.7%増加した(12月末現在)。「わたしは、楽しく学校に通っている」では、肯定的割合が89.3%で前年度より2.6%増加した。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的回答の割合が45.2%と、前年度より2%増加したが目標は達成できなかった。令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が男子0.93ポイント、女子0.99ポイントとなり、昨年度より男子が変わらず、女子は0.1ポイント上回った。「授業はわかりやすい」では、肯定的割合が88.5%で、前年度より5.9%増加し達成した。

【学びを支える教育環境の充実】「授業日において、生徒の8割以上を学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。」については、36.3%(1月末現在)と昨年度より27.3%大幅に増加したが、50%以上とはならなかった。引き続き、授業における学習者用端末の日常的な活用を周知していく。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は87.5%となっている。(2月末現在)

(中期目標における総括)

【安全・安心な教育の推進】「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、最も肯定的な回答が81.7%と達成できなかった。不登校生徒の在籍比率は14.2%と令和3年度より4.6%増加し改善することができなかった。学校で把握した児童虐待の個々のケースは、すべて対応することができた。「自分にはよいところがあると思いますか」の割合は73.4%と、令和3年度より1.7%減少し達成できなかった。「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」では86.5%と、令和3年度より1.2%増加したが目標は達成できなかった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現の平均正答率が54.1%で、令和3年度より17%減少し達成できなかった。令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率5割以下の生徒は国語8.6%、数学25.8%と令和3年度より国語は1.8%下回り、数学は13.1%上回った。「わたしは、授業を通して、基礎的・基本的な学力を身につけている」では87.4%と、令和3年度より3.2%増加したが達成できなかった。令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合は男子0.93ポイント、女子は0.99となり、令和3年度より男子は0.03ポイント下回り達成できなかったが、女子は0.15ポイント上回り達成した。規則正しい生活を身に付けている生徒の割合は朝食は83.7%、就寝は78.5%、起床は95.4%とすべて80%以上となった。

【学びを支える教育環境の充実】全国学力・学習状況調査の「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」について、「ほぼ毎日」と答える生徒は8.7%と、令和3年度より上回ったが100%にすることはできなかった。ゆとりの日の設定は月1回の設定はできたが、週1回の設定はできなかった。長期休業期間中の閉庁日設定は達成できた。1日当たりの読書時間(月～金)は、今年度76.7%で令和3年度よりも下回り達成できなかった。保護者アンケートの「学校には、他の学校にない特色がある」は、49.6%と、令和3年度より22.5%増加し達成することができた。

全体を通して、不登校の割合は増加したが「ふらっとルーム」を開設したことにより20名以上が登校できるようになったことは大きな成果である。いじめについても早期に対応したことにより重大事態となることなく解決させることができた。また、登校時、大きな声で挨拶する生徒、行事ごとで積極的に取り組む生徒が多くなった。少しずつではあるが安全・安心な教育を推進することができた。学力・体力の向上においては、「授業が分かりやすい」は88.5%、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」生徒の最も肯定的回答が45.2%と着実に授業改善が図られている。全国学力テストの国語では大阪市平均を上回り、チャレンジテストはもう少し時間を要するが、学校生活における生徒の学習に向かう姿、教職員の授業内容の工夫が浸透しつつある。しかしながら、生徒の学習用端末の活用については、学びを獲得する上で必要なツールとなっていくことから、授業以外でも日常的に活用する機会を作る必要がある。来年度以降も継続した取組と改善点を確認して取り組んでいきたい。

## 大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

## 評価基準

A: 目標を上回って達成した

B: 目標どおりに達成した

C: 取り組んだが目標を達成できなかった

D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	進捗状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を昨年度より減少させる。</p> <p>○ 令和7年度の学校評価アンケート(生徒用)において、「わたしは、楽しく学校に通っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	
<b>取組内容1【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b>		
<p>・ 慎重な生徒観察を軸に生徒指導に関する情報交換を密に行い、生徒状況の把握に努め、初期対応を逸しないよう心掛けるとともに「いじめについて考える日」の活用を図る。</p> <p>【指標】 「いじめについて考える日」を5月に実施するとともに、生徒理解の取り組みとして、年度当初の生活指導研修の実施、年間2回の教育相談を実施し情報共有する。</p>	生活指導部	B
<b>取組内容2【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b>		
<p>不登校の生徒に対しては、学年団を中心にその状況を適切に把握するとともに、不登校対策委員会を機能させ、学校元気アップコーディネーターや学校力UPコラボレーター、スクールカウンセラーと連携し、より丁寧な対応を心がける。</p> <p>【指標】 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を昨年度より減少させる。</p>	生指 不登校	B B 1年 B 2年 B 3年 A
<b>取組内容3【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b>		
<p>・ 教科書を基本に、生き方に関する感性や自尊感情を養うとともに年間指導計画に基づき、人権に対する感性を養う。</p> <p>【指標】 週1回の道徳授業とともに、週1回の全校集会、学年集会を開催する。</p>	道徳 生指部	B B

大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	進捗状況
<p><b>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p>○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。</p> <p>○ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、昨年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>（学校独自の目標）</p> <p>○ 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「授業はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	
取組内容4【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】		
すべての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的で深い学びの視点から学習・指導方法の改善を図るための実践研究を行い、成果の共有を図る。	国	B
【指標】 一人1回以上の研究授業を実施し、指導方法等について意見交換を行い、改善を図る。	社	B
	数	B
	理	B
	音	B
	美	B
	保体	B
	技家	B
	英	B
取組内容5【基本的な方向5 健やかな体の育成】		
授業において、重点的に持久力を向上させる内容を実施するとともに、体育的行事の実施回数を増加させる。	保体	B
【指標】 保健体育授業において、持久走を実施するとともに、令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である男子20mシャトルラン（持久力）の平均の記録を、昨年度より0.02ポイント向上させる。。	育	B
取組内容6【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】		
インクルーシブ教育システムの充実と推進をはじめ、生徒一人ひとりの能力や特性に応じた指導等を充実させる。	1年	A
【指標】 各教科においては、ペア学習、グループ学習を実施するとともに、各学年、特別支援においては、長期休業期間やテスト前学習等を活用して学習会等を実施する。	2年	B
	3年	B
	国	B
	社	B
	数	B
	理	B
	音	B
	美	B
	保体	B
	技家	B
	英	B
	特支	B

大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	
A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	進捗状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p>○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90.7%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	
<b>取組内容7【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</b>		
一人一台パソコンを利用して教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進を図る	I C T	C
<p><b>【指標】</b> 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p>		
<b>取組内容8【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b>		
働き方改革のさらなる推進を図り、教職員が働きやすい環境を整備する。	管 理 職	B
<p><b>【指標】</b> 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90.7%以上にする。</p>		

年度目標における取組の達成状況・結果と分析 および 次年度に向けて等		
取組内容①	生指部	教育相談はいじめアンケートとあわせて計画的に実施し、生徒の状況把握と早期対応に努めてきた。日常的な観察を通して小さな変化を捉える体制も整いつつある。3学期にも教育相談を実施予定であり、今後も継続した支援と未然防止に取り組んでいく。
取組内容②	生指部	各学年で見られる不登校生徒に対して、家庭との連携を重視した対応を行ってきた。今後も必要に応じて外部機関との連携を図り、生徒一人ひとりの状況に応じた支援を継続していく。
	不登校	利用生徒が学校全体で20名。2学期より本格的に開設。2学期の利用者平均は平均4.816人/日、3学期の利用者平均は平均7.214人/日 となっており、不登校の改善に向けた対策委員会の取り組みが一定の成果を上げている。
	1年	ふらっとルームや区役所の子育てネット、SCなどと連携しながら不登校生の実情に応じて関係を築いている。
	2年	「ふらっとルーム」を利用した生徒が8名。給食を喫食する生徒も増加している。担任やサポートルーム担当を中心に、保護者と連携をとっている。来年度の進路決定を見据え、本人や保護者の気持ちに寄り添いながら対応を続けていく。
	3年	昨年度は来れていなかったが少しずつフラットを利用しながら登校日を増やす生徒が増えてきた。SCとの連携や保護者への連絡は密に取れており、進路についての話もできている。
取組内容③	道徳	重要内容項目を7割以上授業で行うことができた。道徳学習会の周知等を継続し、参加者が増えるように継続していく。
	生指部	週1回の道徳授業に加え、全校集会・学年集会を継続的に実施し、生徒指導の充実を図ってきた。事案発生時には緊急集会を行い、規律意識の向上につなげることができた。今後もこれらの取り組みを継続していく。

取組内容 ④	国語	生徒が主体的に学習できるように、「話すこと・聞くこと」「読むこと」などの領域において、グループやペアワークを積極的に実施している。
	社会	教師との対話・生徒の対話をベースに言語活動を行ってきた。また、ICT機器の活用も資料提示等に用いることにより積極的に行うことができた。社会科の学習指導要領の目標でもある公民的資質の向上にむけて社会科教員で一丸となり日々指導にあたっている。
	数学	問題練習の時間をできるだけとり、相談ができるような環境をつくっている。また、全学年の授業において、グループワークを全体の6割以上行いスモールティーチャーを活用している。授業内での生徒のICT使用率をクラスルーム等を用いて上げていく。
	理科	身近な化学現象について、生徒たちが興味関心を持てるように、実験活動やグループワークを行っている。また、ICT機器の活用、教科書のデジタル教材を使うことで、より良い授業を展開することができた。今後も継続的にICT機器を活用して、生徒の学力向上を目指していく。
	音楽	歌唱指導、楽譜理解や音楽理解に自ら進んで取り組みを行うという目標をかかげ、普段の授業はもちろん合唱コンクールにおいてもその成果が出てきていると思われる。今後もそのまま継続して指導を行っていく。
	美術	ペア学習やグループ学習を行い、作品に対して自分の考えを説明したり、友達の意見を聞いたりするなどして考えを深めたり、広げたりすることができるようにすることができた。今後も生徒の実態に合わせて柔軟に対応しながら、対話的で深い学びに繋がる授業改善を図っていきたい。
	保健体育	各単元においてペアワークやグループワークを取り入れ、生徒同士が関わり合いながら主体的に学習に取り組む姿が見られた。互いに教え合い、切磋琢磨することで、技能の習得や定着につなげることができた。今後も学習内容に応じて効果的に協働的な学習を取り入れ、さらなる学習成果の向上を図っていきたい。
	技術家庭	実習を中心に積極的にグループワークを実施し、生徒同士が協力しながら思考を実現しようとする様子がみてとれるようになった。今後も他者から学び、個々人が技能を高められるように促していく。
	英語	1人1回、公開授業を実施した。授業参観シートを活用し、互いの授業力の研鑽に努めることができた。
	取組内容 ⑤	保健体育

取組内容 ⑥	1年	2学期にはチームビルディングの取り組みを通して、生徒間の円滑な人間関係の構築を図った。また、様々な行事を通して、多様な生徒に活躍の場を与えるとともに、共同的に取り組めるように促してきた。
	2年	夏休みには各教科で学習会、またテスト前には補充学習を実施した。教科ではペア学習、班学習を積極的に実施した。
	3年	教科によって授業内容に応じてペアワークや班活動を実施している。ICTの活用も増えている。各学級でも生活班を中心にお互い助け合いながら活動することができている。
	国語	授業内でのグループやペアワークを充実させ、協働的な学びを通じて、個人の考えを深めさせたい。また、個別最適な学びを通して、学習習慣定着できるように、ICTを活用していきたい。
	社会	丁寧な授業と豊富な学習プリントで基礎学力定着をはかることができた。各学年、個に応じた指導を模索・研究し、1人1台端末を活用しながら実践することができている。
	数学	復習プリント等を適宜作成ができるソフトを導入して柔軟にプリントを作成・使用している。
	理科	実験はできるだけ演示ではなく実際に行わせ、自然現象に直接触れる機会を多くしている。
	音楽	楽譜の書き方や音符・休符の種類などの基本的な学習から、応用・発展的な歌唱につなげている。
	美術	ICTの活用を工夫したり視覚的に伝わり易い作業手順の提示を工夫したりできた。積極的な机間指導を行い、ひとりひとりのニーズに応じた指導を工夫できた。今後もより分かり易く、興味関心を抱くことができるような工夫をしていきたい。
	保健体育	生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるよう授業展開を工夫するとともに、運動が苦手な生徒には個別の課題を設定するなど、個に応じた指導を行ってきた。その結果、多くの生徒が「運動・スポーツ」に前向きな姿勢で取り組む様子が見られた。今後も一人ひとりに寄り添った指導を継続していきたい。
技術家庭	製作課題に積極的に取り組んでおり、生徒一人ひとりが工夫を凝らすことを意識した実習がおこなえている。今後は発表の機会を設け、他者の作品を批評する活動を通してさらなる意識向上に努めていく。	
英語	ペアワークやグループワークを実施し、学び合いの機会を多く持つようにしている。長期休業中は学習会などを実施した。	
特別支援	教科への入り込みでは、個別に全体的に言葉かけをして指示の補足や学習内容のフォローを行っている。抽出授業では本人の特性に応じて課題を設定し、視覚的な教材を使用して学習している。教室になじみにくい生徒に対しては登校支援という形で、サポートルーム自主課題を行う場や教員との対話の場として活用し、落ち着いて学校生活を送ることができるよう個別対応を行っている。放課後を活用し、自立活動として課題の取り組みを行っている。また、生徒の得意分野に着目し、伸ばした。	
取組内容 ⑦	ICT	タッチペンの導入により、一人一台学習者用端末の画面に直接タッチペンで書き込みながら学習する様子が見られた。今回の端末入れ替えから、家庭で充電してから学校に持参するようになり、持参を忘れる生徒や、充電を忘れてしまう生徒がいたので、習慣づくように指導をしていく。心の天気も各学級で積極的に声掛けを行い、生徒の指導に活用していく。なお、1月末現在の8割の生徒が活用する割合は36.3%だった。
取組内容 ⑧	管理職	職員会議のある日を「ゆとりの日」として設定し、定時で退勤できるよう推奨した。また、長期休業中における学校閉庁日については6日間、祝日等も併せて9日間閉庁した。長期休業期間やテスト実施日など都合に合わせて年休を取得すること、ライフスタイルに合わせて時差勤務、体調に合わせて特休、年休等が取得しやすい職場づくりを心掛けた。次年度も年休取得等が促進されるよう働きかけをしていく。なお、10日以上年休取得率は87.5%（2月末現在）だった。